

高等学校の不登校の現状を理解する

平成22年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、不登校として報告があった公立高等学校（札幌市立を除く）の生徒の状況を分析した結果を紹介します。

不登校児童生徒の約3割は2年以上の継続 しかし、復帰は可能！

グラフ1に示すとおり、平成22年度に不登校であった児童生徒のうち、72.5%は平成22年度に不登校となっており、残る27.5%は平成21年度より前に不登校になっています。

しかし、表1に示すとおり、平成21年度より前に不登校になり長期化していた生徒であっても、約2割の生徒は平成22年度に登校できるようになっていることが明らかになりました。

表1 登校になった年度と平成22年度における解消率（%）

H22	H21	H20	H19以前
20.6	20.7	25.6	19.1

表1の見方
例)

平成21年度の20.7%は、平成21年度に不登校になり平成22年度まで不登校が継続していた生徒のうち、平成22年度に登校できるようになった生徒の割合を示しています。

表2 登校になった年度と平成22年度に中退した生徒の割合（%）

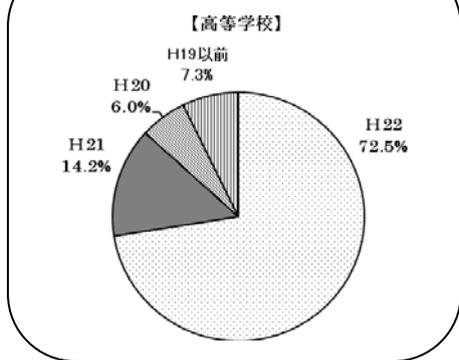
H22	H21	H20	H19以前
55.3	45.7	56.4	46.8

まだ登校できていない生徒の 中にも復帰できる可能性の ある生徒がいる！

グラフ2は、各年度に不登校になった生徒のうち、平成22年度において登校できるようになった生徒の欠席の状況を示したものです。登校できるようになった児童生徒のうち、約6割の生徒は連続した欠席が1ヶ月未満であり、連続した欠席の期間が短いほど登校できるようになる可能性が高まります。

また、グラフ3に示したとおり、登校するに至っていない児童生徒の中にも、連続した欠席が1ヶ月未満の生徒が2割程度おり、たとえ不登校の期間が2年以上継続していても、適切な支援によって登校できるようになる可能性があると考えられます。

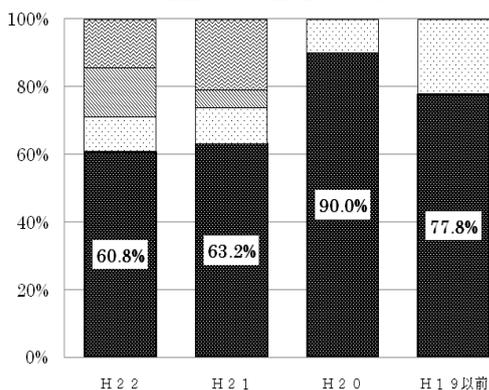
グラフ1 不登校になった年度



不登校になった年度にかかわらず 中退した生徒の割合は約5割

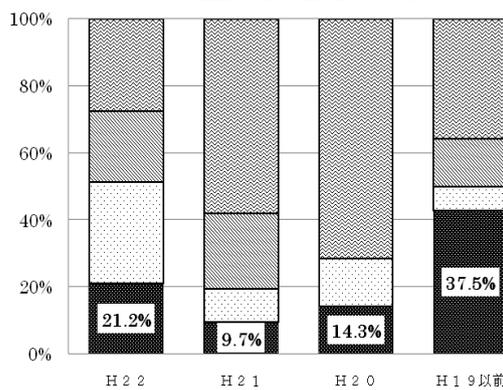
表2に示すとおり、平成22年度に不登校になった生徒のうち中退した生徒の割合も、平成21年度より前に不登校になって継続し、平成22年度になってから中退した生徒の割合も約5割となっています。

グラフ2 登校できるようになった
児童生徒の連続欠席の状況



■ 連続した欠席が1ヶ月未満
□ 連続した欠席が1ヶ月以上2ヶ月未満
▨ 連続した欠席が2ヶ月以上3ヶ月未満
▩ 連続した欠席が3ヶ月以上半年未満
⊞ 連続した欠席が半年以上

グラフ3 登校するに至っていない
児童生徒の連続欠席の状況



□ 連続した欠席が1ヶ月未満
▨ 連続した欠席が1ヶ月以上2ヶ月未満
▩ 連続した欠席が2ヶ月以上3ヶ月未満
⊞ 連続した欠席が3ヶ月以上半年未満
⊟ 連続した欠席が半年以上